

# 寸言

住友精密工業株式会社  
専務取締役

田岡 良夫



## 日本の民間航空機事業の新たな門出にむけて

新年明けましておめでとうございます。住友精密工業(株) (SPP: Sumitomo Precision Products) の田岡でございます。弊社は兵庫県尼崎市の本社工場と、滋賀県草津市の滋賀工場を拠点とし、1980年代から民間航空機分野への進出に取り組んで参りました。実績が重んじられる民間航空機市場において、新たに参入することは決して平坦な道ではありませんでした。が、約30年の月日と先達の努力の積み重ねにより、降着装置システムと、エンジン用を主とする熱制御システムの2系統の装備品において、民間航空機市場の一角を担うことができるようになりました。

この間、海外拠点として、熱制御システムを取り扱うSPU (Sumitomo Precision USA) を2000年に米国ダラスに、降着システムを取り扱うSPP Canada Aircraftを2012年にカナダのトロントに設立し、顧客対応を中心に活動を行っております。

サプライチェーンでは、国内では子会社である新泉精機(株)を中心にネットワークを広げつつあります。また中小企業の航空機産業参入支援を目的とする近畿経済産業局の「関西国際航空機市場参入等支援事業」に賛同しJapan Aero Networkという、航空機部品の完成品供給ネットワークの育成にも取り組んでおります。北米では、機械加工部品メーカーであるCFN Precisionを2013年に買収し、日本品質を兼ね添えた北米サプライチェーンの確立に取り組んでおります。アジアでは、2007年に台湾の鋳物製造会社(AVIICAST社)に、続いて

2009年には台湾の機械加工会社(MAGNATE社)に出資し、両社には高品質部品の安定的な供給網の一翼を担って頂いております。

また、欧米のサプライヤを従えて航空機開発プログラムに参画する機会も増し、社内調達部門、技術部門、品証部門が一丸となって海外サプライヤのリードにあたりると共に、New York事務所、London事務所にはエンジニアを配し、また現地スタッフを雇用する等、現地からのサポート体制の強化にも努めております。

MROに関しましては、将来の自社降着装置製品のサポート体制構築に向けて2014年に諫早市にSPP長崎エンジニアリング(株)を開設しアジア圏でのMROビジネスの拡大を目指しております。また、アジア圏以外でのMROに関しましては、実績のあるMRO会社(Lufthansa Technik及びHawker Pacific Aerospace)との業務提携で自社製品をサポートする体制を整えております。

2015年は日本の航空機産業にとりまして大きな節目の年になると思われれます。半世紀ぶりの国産民間旅客機MRJの初飛行が予定されておりますし、かねてよりフライトテストを継続しておりますホンダジェットも型式承認の取得と共に量産出荷開始が見込まれております。

弊社はこれからも、日本の航空機産業発展の一翼を担うことができるよう努力して参ります。会員各社様から、引き続きご指導、ご支援を賜ることができれば幸いです。